

採血・静脈注射・点滴を受けられる患者さまへ

採血は細心の注意を払って行い、基本的に安全な技手で合併症を起こす頻度は少なく、軽症なものが多いとされておりますが、稀に次のような症状が起こることがあります。

● 止血困難・皮下血腫（青あざ）

採血後に血が止まりにくかったり、青あざが生じたりすることがあります。十分な圧迫止血をしていただきますようお願いいたします。血が止まりにくい方はお申し出ください。

● アレルギー

採血時の消毒液やスタッフの手袋（ラテックス）などでかゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出現する場合があります。

アレルギーをお持ちの方はお申し出ください。

● 神経損傷

採血後に手指へ広がる痛み・しびれなどが生じ、一定期間が経過したあとも持続します。約1万～10万回の採血に1回程度の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経は個人差が大きいので、神経損傷を100%防止することは出来ませんが、通常の採血では太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で、症状は軽く一時的な場合がほとんどです。しびれが続く場合はお申し出ください。

● 血管迷走神経反応

採血時や採血前後に、神経が興奮し急激に血圧が下がることによって、めまい、気分不良、意識消滅などを引き起こすことがあります。気分が悪くなったことがある方はお申し出ください。

参考：医療の質・安全学会「採血説明」

※これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。なおその際の医療は通常の保険診療扱いとなります。気になる症状がありましたら、すぐにスタッフにお知らせください。また上記以外に該当する方も事前にお申し出ください。

○血液透析中の方

○乳房切除手術を受けられた方

○血液をサラサラにする薬（ワーファリン・プラビックなど）を服用中の方

2023年4月1日もとぶ野毛病院